

第1回部会での意見に対する対応について(第1部会)

資料 4

1 「目標」に対する指摘事項

整理番号	No.	目標名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	指摘事項	回答
1	10	小学校不登校児童の割合	122	学校教育	今後の方針	質問票による質問	親への対応は行っているか。	家庭環境や親子関係等が不安定なケースに関してケース会議を行い、学校と関係機関がチーム体制で、次のような子ども・保護者への支援を行っております。 ①市や県の専門相談員(スクールメンタルアドバイザー・スクールソーシャルワーカー)等のコーディネートにより、子ども・保護者と関係機関をつないでいく。 ②保護者が抱える不安や悩みを解消できるよう学校や各機関が相談を受け、必要に応じて他機関と連携して対応する。 ③子どもや家庭への具体的支援のあり方について、学校や関係機関が保護者との懇談等の機会をつくる。
2	67	消防団協力事業所数	612	消防・救急	その他	会議中の質問	消防団協力事業所と認定される要件は。(従業員の中に1人でも消防団員がいれば認定されるのか)	次のいずれかに適合している場合に認定されます。(消防団協力事業所表示制度実施要項第4条より) ①原則として、2人以上の従業員が消防団員であること ②従業員の消防団活動に積極的に配慮している ③災害時に資機材等を消防団に提供するなど協力をしている ④その他、消防団活動に協力することにより、地域の消防防災体制の充実強化に寄与している したが、従業員の中に消防団員が1人しかいない(又は1人もいない)事業所でも、他の要件に該当していれば認定を受けることができます。
3	71	消費生活展、街頭啓発、講習会などの実施回数	615	消費生活	その他	質問票による質問	老人クラブに参加されていない高齢者を対象とした講習会の開催状況について教えてほしい。	老人クラブ未加入者に対しては、各地区で開催される敬老会、いきいきサロン、出前講座などで講習の依頼を受け対応をしていますが、平成25年中は、まちづくり講座1回のみでした。 ご指摘の、老人クラブ未加入者をはじめ講習会に出席したくとも出席できない方々に対する消費者教育が低調であることは、担当課でも危惧しておりましたし、また、特殊詐欺被害が激増している情勢を踏まえて、平成26年中には、民生児童委員さんにご協力を依頼し、高齢者世帯訪問時に啓発チラシの配布と口頭による被害防止指導を行う活動を推進しているほか、いきいきサロンにおける講習会の開催も複数実施しております。 なお、ご質問内容から若干逸れますが、平成25年中担当課では、佐久市老人クラブ連合会に加盟している65団体に、講習会開催の依頼をお出ししていますが、25団体の申し込みに留まり、消費者問題に対する意識が低いことも窺われ、引き続き啓発活動を推進してまいりたいと考えております。

2 「チャレンジ！！」に対する指摘事項

整理番号	施策コード	施策名	質問箇所	種別	指摘事項	回答
1	132	スポーツ	その他	会議中の質問	長野パルセイロのホームゲームは男女とも完全に撤退してしまうのか。	レディースについては来シーズンも公式戦の開催を予定していると伺っています。トップチームがJ2へ昇格した場合は、競技場がJ2規格に適合しないため、公式戦を行うことはできませんが、強化試合等の開催をお願いしてまいります。

3 評価の仕組み・資料の作り方に対する指摘事項

整理番号	指摘箇所		種別	指摘事項	回答
1	目標	評価の求め方	会議中の質問	「犯罪発生件数」(614防犯)について、平成24年度に比べると、平成25年度の犯罪発生件数が増えているのに、評価が「順調」になっている。データ上誤りがないとしても、こうしたケースは機械的に評価を算出するのではなく、評価を変更した方が良いのではないか。	ご意見として承り、来年度の施策の進行状況の評価にあたって、資料作成に生かしてまいります。

H26.8.29 第1回部会

1 「目標」に対する指摘事項

整理番号	部会名	No.	目標名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	指摘事項	対応	回答	担当課	発言者
1	第1部会	10	小学校不登校児童の割合	122	学校教育	今後の方針	質問票による質問	親への対応は行っているか。	次回部会で報告	家庭環境や親子関係等が不安定なケースに関してケース会議を行い、学校と関係機関がチーム体制で、次のような子ども・保護者への支援を行っております。 ①市や県の専門相談員(スクールメンタルアドバイザー・スクールソーシャルワーカー)等のコーディネートにより、子ども・保護者と関係機関とをつないでいく。 ②保護者が抱える不安や悩みを解消できるよう学校や各機関が相談を受け、必要に応じて他機関と連携して対応する。 ③子どもや家庭への具体的支援のあり方について、学校や関係機関が保護者との懇談等の機会をつくる。	学校教育課	斉藤委員
2	第2部会	32	農業アシスタント数	311	農業	その他	会議中の質問	中国からの農業研修生の人数は、市で把握しているのか(把握しているとすれば何人か、農業アシスタントの目標数には含まれていないという解釈で良いか)。	次回部会で報告	農業研修生は、アシスタント講習の対象者にはなっておりません。中国からの農業研修生の人数は把握しております。	農政課	樫山委員
3	第2部会	32	農業アシスタント数	311	農業	その他	会議中の質問	講習は何人が受け、そのうちどのくらいの割合でアシスタントになっているのか。	次回部会で報告	平成24年度から累積すると、41人の受講生があり、そのうち約2割がアシスタントとなっております。	農政課	石井委員

4	第2部会	33	農業法人数	311	農業	その他	会議中の質問	農業法人は、規模的にはどのくらいの大きさなのか(1、2名でも設立できるのか。できるとすれば、目標の20法人だけでは農業振興につながらないのではないか)。	次回部会で報告	農業は、恒常的に生産する製造業等とは、生産方法が違うため、家族規模で法人化する農業者がほとんどであります。法人化により、農業後継者以外の農業未経験者等の雇用及び新規参入の農業従事者を増やし、作業の効率化を図るなかで、独立就年間商品販売額の分析は、H24-H19、H19-H16について行っていますが、事業者が特定される場合、統計資料上販売額が未公表となること等から細かな分析は行っていません。従って、年間商品販売額が公表されている卸	農政課	春日委員
5	第2部会	38	商品販売額	321	商業	その他	会議中の質問	商品販売額の統計をもとに、市内の(地元の)商業構造の変化に関する分析を行っているか(あれば内容を教えてほしい)。	次回部会で報告		商工振興課	樫山委員
6	第2部会	40	製造品出荷額	341	工業	その他	会議中の質問	製造品出荷額の指標は企業の海外移転を考慮していないため、工業振興の目標としては不十分である。逆に光る企業を探したり、創業を支援したりする方が良いのではないか。	意見として承り、改良を検討	— (ご意見として承るが、提案事項を目標に差し替えることはしない)	商工振興課	樫山委員
7	第3部会	42	福祉体験教室開催回数	411	福祉のまちづくり	その他	会議中の質問	年16回を目標とした根拠は。	次回部会で報告	市内全小学校において、最低1回ずつ開催することを目標としたことから、市内小学校数の16回としました。	福祉課	小林委員

8	第3部会	43	介護予防事業の延べ参加者数	412	高齢者福祉・介護保険	結果の分析 会議中の質問	結果の分析に参加者数が増加したと書いてあるが、何が原因で増えたのかの記載がないので分析になっていない。	次回部会で報告	<p>・「結果の分析」欄を、次のとおり修正します。 介護予防に対する保健師・看護師の訪問体制の充実により、該当者の介護予防の必要性について理解が得られやすくなり、動機づけができたことにより、参加に結びつき、二次予防高齢者施策の介護予防ふれあいサロン事業の参加者が増加した。 一般高齢者施策では、積極的なPRを地区サロンや広報等で行ったことにより、介護予防の必要性について理解が得られたことから、各事業において、参加者が増加した。</p> <p>・二次予防高齢者は、介護保険法で定められたチェックリストに回答された方で、介護予防が必要と該当される方です。その方に対し、保健師、看護師が訪問し介護予防ふれあいサロン事業に介護予防のために参加を促し、自己決定した方が、地域包括性センターでケアプランを作成し、通所となります。介護予防の必要性を該当者に理解していただくための職員の体制が整い、職員のアプローチの技術が向上したためと思われます。一般高齢者施策は、高齢者が自主的に参加できる事業です。地域や広報等で積極的に情報提供しておりますが、参加者の満足度が高いため、口コミ等で広がっていると思われます。 二次予防高齢者施策と一般高齢者施策を合わせて、介護予防事業としていきます。</p>	高齢者福祉課	小林委員
9	第3部会	44	相談支援事業実施事業所数	413	障がい者福祉	今後の方針 会議中の質問	「ニーズを的確に把握し、満足度を高められるように事業を実施していく。」とあるが、「事業所に働きかけていく」等、目標に対する具体的な取組を書いた方がよい。	次回部会で報告	<p>・「結果の分析」欄を、次のとおり修正します。 障がい者の福祉に関する様々な問題について相談に応じ、福祉サービス利用のための情報提供等を行う関係機関と支援会議を行うなかで、相談支援の充実が図られてきている。平成25年度末、主たる障がい対象別相談支援事業所数 身体・知的・精神障がい8、知的障がい3、精神障がい1</p>	福祉課	小林委員
10	第3部会	44	相談支援事業実施事業所数	413	障がい者福祉	その他 会議中の質問	障がいの種類(知的障がい、精神障がい、身体障がい)ごとに対応している事業者の数の内訳まで出してほしい。	次回部会で報告	<p>・「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 相談支援事業所及び相談支援専門員等との連携協力するなかで、一人でも多くの相談支援専門員の資格取得をお願いし、障がい児(者)にとって必要な支援やサービスを提供し、満足度を高められるよう事業を実施していく。</p>	福祉課	小林委員

11	第3部会	45	高等技能訓練促進費・自立支援教育訓練給付金受給者数	414	母子父子福祉・低所得者福祉	その他	会議中の質問	人口10万人の市で給付目標値が6人というのは、目標が低すぎないか。	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員
12	第3部会	46	びんころステーション延べ参加者数	421	健康増進	その他	質問票による質問	①山門市、冬季ともに開催回数をいくつからいくつに減らしたのか。 ②平成24年度実績から見ると増えている。増加のための取組も記載すべきではないか。	次回部会で報告	①野沢山門市は、観光客の方が多く市民が少ないため、年5回から4回へ減らし、5月から10月までの開催とした。 ②「結果の分析」欄を、次のとおり修正します。野沢山門市は、観光客の方が多く市民が少ないため開催回数を減らした。また、冬季は戸外での開催のため、健康相談にふさわしくない環境であることから冬季の開催を減らした。平成25年度は保健補導員の全てのブロック研修14会場でびんころ食の試食を含めた栄養講話(びんころステーション)を実施し、研修で興味を持った補導員の方が地域でも企画をし、びんころステーションを行った回数が多かったため、増加したと考えられる。	健康づくり推進課	小林委員
13	第3部会	46	びんころステーション延べ参加者数	421	健康増進	その他	質問票による質問	実施箇所の拡大をどのようにしてどの程度拡大するのか、具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告	「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。市内全域で活動している、食生活改善推進協議会や保健補導員会などとタイアップはもちろん、若い世代へは小中学校の給食を介しながら、市内全域、さまざまな世代へびんころ食を通じた食育活動の拡大を図る。びんころステーションを年30回以上開催する。	健康づくり推進課	小林委員
14	第3部会	47	3歳児のむし歯保有率	421	健康増進	結果の分析	質問票による質問	①分類変更の見直しについてはもう少しわかりやすい説明が必要ではないか。例えば「むし歯判定の基準が平成25年度に変更され、サホライド塗布歯むし歯とすることになった」とか。元の基準で判定した時の値があれば、それも記載するといいいのでは。 ②「一因」とあるが、それではそれ以外の要因は何か。	次回部会で報告	「結果の分析」欄を、次のとおり修正します。むし歯判定の基準について長野県の通知により、平成25年度よりサホライド塗布歯の扱いをサホライド塗布の有無でなく、脱灰の有無により健全歯かむし歯の判断をすることとなったためと考えられる。	健康づくり推進課	小林委員
15	第3部会	47	3歳児のむし歯保有率	421	健康増進	今後の方針	質問票による質問	「教室等を有効に活用して」とあるが、何をどのようにするのか、具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告	「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。子どもの歯の教室や公民館主催の乳幼児学級、子育て支援課主催の子育てサロンなど、親子で参加する機会を活用し、歯科衛生士による歯予防のための歯科指導を行い、むし歯保有率の減少を図る。	健康づくり推進課	小林委員

16	第3部会	48	メタボリック シンドローム 該当者・予 備軍の割合	422	保健活動	今後の方 針	質問票に よる質問	「集計中」とあるが、いつ判明するのか。それによっ て記載が異なるのではないかと。	次回部会 で 報告	「結果の分析」欄を、次のとおり修正します。 現在集計中だが、割合は大きく変化していな いものと思われる。実績値はH26年10月中旬 に確定。9月4日時点での速報値は25.4%と なっている。	健康づくり 推進課	小林委員
17	第3部会	48	メタボリック シンドローム 該当者・予 備軍の割合	422	保健活動	その他	質問票に よる質問	「指導の充実」とあるが、何をどのようにするのか、具 体的に記載すべきではないかと。	次回部会 で 報告	「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 医療機関との連携を図るなどし、特定保健指 導や結果報告会での指導を充実させる。(研 修会に積極的に参加し、月1回の学習会で事 例検討や国の動向、佐久市の現状等を把握 し、保健指導を行う者のスキルアップを図っ ている。また、フードモデルや手づくりの教材を使用 することで、市民が自らの生活習慣の改善 がイメージしやすい保健指導を心掛ける。)	健康づくり 推進課	小林委員
18	第3部会	49	浅間総合病 院第二次整 備事業進捗 率	423	医療	今後の方 針	質問票に よる質問	「新たなスケジュール」では今後の進み具合がどう なりそうかと、具体的に記載すべきではないかと。	次回部会 で 報告	「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 新たな事業スケジュールにより、事業進捗を 図る。 【新たな事業スケジュール】 H26.7新中央棟建設工事着工 H29.1新中央棟建設工事竣工 H29.3新中央棟開院	浅間病院 総務課	小林委員
19	第3部会	50	国民健康保 険税収納率 (現年課税 分)	424	医療保 険・国民 年金	今後の方 針	質問票に よる質問	今後の方針に、「専任徴収員の配置を検討する」と あるが、部会とすれば、「徴収員の配置をぜひす べきだ」というように言った方が、予算の獲得にも資 すると思うが、どうか。	部会報告書 に付記する かどうかを検討		国保医療 課	小林委員
20	第3部会	51	こんにちは 赤ちゃん事 業における 新生児訪問 率	431	母子保健	今後の方 針	会議中の 質問	結果の分析に「事業が地域に浸透している」と記載 されているが、市として何をやって何がよかったの か。今後の方針も、「実施をさらに強化していく」とあ るが、何を強化していくのか。	次回部会 で 報告	・母子手帳交付時、パパママ教室時、出産で の入院時、出生届出時等の機会に訪問につ いての説明を実施しております。また、出生届 出時に配布する赤ちゃん手帳へ記載をしてお ります。経産婦さんには、赤ちゃんが生まれれ ば、保健師・助産師による訪問を受けるものだ という意識が浸透していると思われます。 ・「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 生後4か月以内に訪問できるよう、実施をさら に強化していく。(母子手帳交付時、パパママ 教室時、出産での入院時、出生届出時等の 機会に対象者全員に確実に周知繰り返し説明 する。また、訪問不要の方の理由を把握し アセスメントしていく。)	健康づくり 推進課	小林委員

21	第3部会	53	つどいの広場の延べ利用者数	431	母子保健	今後の方針	質問票による質問	①開催日数をいくつかからいくつに減ったのか。ただ、平成24年度もベースラインより少ないので、その分析も必要ではないか。 ②「気軽に集い、…」の文章は不要ではないか。ここではあくまでも利用者数の増加を取り上げているので、それに関する分析が必要。	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員
22	第3部会	53	つどいの広場の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	その他	質問票による質問	①「参加者の要望を…」とあるが、現時点でどんな内容が想定され、どんな対策が考えられるか記載すべきではないか。 ②「場所の提供」、「相談支援」とあるが、今まではあまり実施していなかったことか。今後はどの程度進めるのか、具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員
23	第3部会	53	つどいの広場の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	その他	質問票による質問	①「つどいの広場」とはどんなものか計画にも記載がありません。1行程度の簡単な説明が付けられるといいのではないかと(市民の皆さんがご存じでしたら申し訳ありません)。 ②ベースライン15,099人で目標15,800人とわずか4%の増加にしかになっていないが、事情があるのか。 ③先日の部会で出たように、子どもの数で割るなどの工夫がこの項目でも必要ではないか。	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員
24	第3部会	54	児童館の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	その他	質問票による質問	①目標に達していない分析を記載すべきではないか。 ②「H25年度実施した…高い。」の文章は不要ではないか。ここではあくまでも利用者数の増加を取り上	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員
25	第3部会	54	児童館の延べ利用者数	432	子育て支援・児童福祉	結果の分析	質問票による質問	「検討を進める」とあるが、いつ、どのようにしてなど具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員
26	第3部会	55	市内家庭の総消費電力	511	環境保全	今後の方針	質問票による質問	①「ライフスタイルなどによるエネルギー需要の固定化」ではわかりにくい。もう少し説明が必要ではないか。 ②市民の側に課題があることも理解できるが、行政の取組に対する分析を記載すべきではないか。	次回部会で報告	①省エネ行動は意識されている一方で、近年の異常な暑さや、積雪量の増加などもあり、生活習慣の中で必要なエネルギー使用量が一定化されてきている。 ②行政としても省エネやクールシェア・ウォームシェアの呼びかけ強化や、省エネ住宅・省エネ機器の導入促進につながる助成などを検討していくことが必要と考えております。	記載内容変更	
27	第3部会	55	市内家庭の総消費電力	511	環境保全	その他	質問票による質問	取組としては「広報」だけか。	次回部会で報告	広報や市のホームページ、FM放送などにより周知を行ってまいります。	記載内容変更	

28	第3部会	55	市内家庭の 総消費電力	511	環境保全	今後の方 針	質問票に よる質問	指標が「総消費電力」となっている。全体の消費量を抑えるとの観点から重要な指標だが、合わせて、一人ひとりの取組を進めるとの観点からすると、人口で割った「市民1人あたり」の指標も重要。それについても今後、モニタリングしてはどうか。	次回部会で 報告	【人口で割ることについて補足(担当課聞き取り)】提案の指標を求めることは技術的には可能だが、乳幼児からお年寄りまで電力の消費パターンが大きく異なるため、求められた消費量が業務上あまり参考にならない。したがって、公式な指標として管理していくことは考えていない。一人ひとりの心がけがあってこそ総消費電力を減らすことができる点はご指摘のとおりであり、今後も省エネに対する啓発活動を続けたいと考えている。	環境政策 課	小林委員
29	第3部会	56	平尾山公園 の入場者数	512	街並み緑 化・公園・ 景観形成	今後の方 針	質問票に よる質問	①入場者数を「社会情勢」に結び付けるのは無理があるのではないかと。 ②天候については、雨天の日数や天候による入場者数の分析などまで行っているのか。	次回部会で 報告	「結果の分析」について、次のとおり修正します。 夏季の猛暑、2月の大雪とそれに伴う高速道路の通行止め等の影響により、入場者数の減少がみられる。	公園緑地 課	小林委員
30	第3部会	56	平尾山公園 の入場者数	512	街並み緑 化・公園・ 景観形成	その他	質問票に よる質問	①昆虫館の入場者数の増加を数値で示してはどうか。 ②企画をどのように充実させるか、具体的に記載すべきではないか。	次回部会で 報告	「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 公園開設から約20年が経過し、施設の老朽化が見られることから、公園施設長寿命化計画に基づき老朽化した施設の更新を順次行い、また、来園者の増加も図るため、指定管理者において効果的な施策を検討する。	公園緑地 課	小林委員
31	第3部会	58	事業系ごみ の排出量	521	環境衛生	その他	質問票に よる質問	「啓発の強化」について、具体的に記載すべきではないか。	次回部会で 報告	事業系ごみ袋販売の際に市役所窓口で分別徹底指導や、前年度比排出量増加事業所への直接指導を実施。	記載内容変更	委員
32	第3部会	58	事業系ごみ の排出量	521	環境衛生	その他	質問票に よる質問	経済対策として企業活動を支援するという流れの中においては、「事業系ごみの排出量の減少」というのは矛盾する目標に思えるが、いかがか？少なくとも、事業所数で割るなど、今後は現実的な指標でもモニタリングしてはどうか。	次回部会で 報告	適正分別実施事業所の増加による排出量の自然増は認めた上で、前年度比ごみ排出量増加事業所に対する指導を実施しているため、矛盾しているとは考えておりません。 、【事業所数で割ることについて補足(担当課聞き取り)】提案の指標を求めることは技術的には可能だが、事業規模が各所で大きく異なるため、求められた数字が業務上あまり参考にならない。したがって、公式な指標として管理していくことは考えていない。現在の問題は、誘致に伴って企業が増えることによるごみの量の増加ではなく、分別ができていない事業所があることによるごみの増加であると捉えており、個別指導を強化(事業系ごみ袋の購入枚数や購入傾向から把握可能)することによって対応している。	生活環境 課	小林委員

33	第3部会	60	上水道有収率	522	上水道	結果の分析	質問票による質問	①施設の老朽化に関するデータを記載すべきではないか。 ②ちなみに、どこの場所がどのくらい漏れているのかという現状は把握されているのか。また、そのような現状があるのは、修繕に必要な予算が確保できないからか。 ③また、漏水による損失額はどのくらいになるのか、記載すべきではないか。	次回部会で報告	漏水調査を継続的に実施するとともに、マッピングシステムを有効活用することにより配水ブロックごとの有収水量と配水量を把握し、配水量の分析及び効果的な漏水調査を実施する。配水管網全体のうち耐用年数を超えているものは残り17.8%となり老朽管の更新事業は順調に進んでいるが、老朽化した給水装置からの漏水が多いとも考えられることから、これらの給水装置更新を検討する。	環境政策課	小林委員
34	第3部会	60	上水道有収率	522	上水道	今後の方針	質問票による質問	「施策を検討する」段階なのか。具体的な対策を記載することは困難ということか。	次回部会で報告	<p>補足(環境政策課より): No.33~36は佐久水道企業団に相談し、企業団から回答をもらった。企業団では、公表可能なデータはできる限り回答に含めたが、漏水の箇所や損失額は回答を控えたいとのこと。環境政策課としては、具体的な対策・具体的取り組みは、企業団が明らかにしない限り記載できないため、今回の記載内容については、</p> <p>一日最大配水量は将来的に減少傾向で推移するものとして予測しているが、安定した水の供給を持続させるため、継続的に新規水源開発事業に取り組んでいる。</p>	環境政策課	小林委員
35	第3部会	61	水源余裕率	522	上水道	その他	質問票による質問	水源量増加、排水量減少の取組を記載すべきではないか。	次回部会で報告		環境政策課	小林委員
36	第3部会	61	水源余裕率	522	上水道	今後の方針	質問票による質問	「適正な水源量確保」に関する具体的な取組を記載すべきではないか。	次回部会で報告		環境政策課	小林委員
37	第3部会	61	水源余裕率	522	上水道	今後の方針	質問票による質問	計画書133ページ脚注の水源余裕率の計算式が誤っているのではないかと(1の直後に来るので	次回部会で報告	ご指摘のとおり。	環境政策課	小林委員
38	第3部会	62	下水道整備面積	523	下水道	その他	質問票による質問	「着実に増加している」とあるが、評価は「やや遅れている」なので、整合を取る必要があるのではないかと。	次回部会で報告	下水道事業が順調に整備されてきた中で、平成23年度に計画の見直しを行い、優先順位を考慮しながら整備を行うことに変更し、その方針では着実に整備が進んでおります。	下水道建設課	小林委員
39	第3部会	62	下水道整備面積	523	下水道	その他	質問票による質問	来年度には目標(目安)に達するための具体的な取組が必要ではないか。平成25年度が「やや遅れている」ので、次で挽回するためには予算等が具体的に必要となる。	次回部会で報告	計画が抑制されてきている中で、平成27年度に目標の見直しを行う必要があると考えております。	下水道建設課	小林委員

40	第3部会	63	下水道使用料収納率(現年分)	523	下水道	今後の方針	質問票による質問	<p>①「今後の方針」に口座振込に関する記載があるので、結果の分析欄にその現状を記載するとわかりやすいのではないかと。</p> <p>②また、滞納処分・滞納整理の現状についても同様。</p>	次回部会で報告	<p>「結果の分析」欄を、次のとおり修正します。25年度は年度末(2月)の大雪が影響し、交通に支障が生じたため、この時期の収納率が低下。翌年度収入にずれ込んでしまったことにより、現年度分下水道使用料収納率が目標値に若干達しなかった。</p> <p>「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。口座振替(現在の利用率:79.5%)を推進するため、現金納付者の納入通知書すべてに推進チラシ及び口座振替依頼書を同封。また、滞納処分を視野にいれた滞納整理強化(未納者に対する訪問・催告通知など)を徹底する。</p>	下水道業務課	小林委員
41	第1部会	67	消防団協力事業所数	612	消防・救急	その他	会議中の質問	消防団協力事業所と認定される要件は。(従業員の中に1人でも消防団員がいれば認定されるのか)	次回部会で報告	<p>次のいずれかに適合している場合に認定されます。(消防団協力事業所表示制度実施要項第4条より)</p> <p>①原則として、2人以上の従業員が消防団員であること</p> <p>②従業員の消防団活動に積極的に配慮している</p> <p>③災害時に資機材等を消防団に提供するなどの協力をしている</p> <p>④その他、消防団活動に協力することにより、地域の消防防災体制の充実強化に寄与している</p>	消防団管理室	武重委員

42	第1部会	71	消費生活 展、街頭啓 発、講習会 などの実施 回数	615	消費生活	その他	質問票に よる質問	老人クラブに参加されていない高齢者を対象とした講習会の開催状況について教えてほしい。	次回部会で 報告	<p>老人クラブ未加入者に対しては、各地区で開催される敬老会、いきいきサロン、出前講座などで講習の依頼を受け対応していますが、平成25年中は、まちづくり講座1回のみでした。</p> <p>ご指摘の、老人クラブ未加入者をはじめ講習会に出席したくとも出席できない方々に対する消費者教育が低調であることは、担当課でも危惧しておりましたし、また、特殊詐欺被害が増している情勢を踏まえて、平成26年中には、民生児童委員さんにご協力を依頼し、高齢者世帯訪問時に啓発チラシの配布と口頭による被害防止指導を行う活動を推進しているほか、いきいきサロンにおける講習会の開催も複数実施しております。</p> <p>なお、ご質問内容から若干逸れますが、平成25年中担当課では、佐久市老人クラブ連合会に加盟している65団体に、講習会開催の依頼をお出ししていますが、25団体の申し込みに留まり、消費者問題に対する意識が低いことも窺われ、引き続き啓発活動を推進してまいりたいと考えております。</p>	生活環境 課	斉藤委員
----	------	----	---------------------------------------	-----	------	-----	--------------	--	-------------	---	-----------	------

H26.8.29 第1回部会

2 「チャレンジ！！」に対する指摘事項

整理番号	部会名	施策コード	施策名	質問箇所	種別	指摘事項	対応	回答	担当課	発言者
1	第1部会	124	青少年の健全育成	その他	会議中の質問	青少年健全育成の啓発活動として、「家庭の日」や家庭の重要さのさらなる啓発をしてほしい。	部会報告書に付記	—	生涯学習課	佐々木委員
2	第1部会	132	スポーツ	その他	会議中の質問	長野パルセイロのホームゲームは男女とも完全に撤退してしまうのか。	次回部会で報告	レディースについては来シーズンも公式戦の開催を予定していると伺っています。トップチームがJ2へ昇格した場合は、競技場がJ2規格に適合しないため、公式戦を行うことはできませんが、強化試合等の開催をお願いしてまいります。	体育課	武重委員
3	第1部会	132	スポーツ	その他	会議中の質問	市内の長野パルセイロのファンのために、交流試合数試合だけでも佐久市に持ってこられるような取り組みをしていただきたい。	部会報告書に付記	—	体育課	武重委員

4	第3部会	411	福祉のまちづくり	その他	会議中の質問	マップを作っても使い方が分からなければ意味がないので、マップの使い方を指導していくということを、今後の方針の中に追加してほしい。	意見として承り、改良を検討	・「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 今後も社会福祉協議会等を通じて 支え合いマップの目的や使用方法について説明する とともに、マップ未作成の地区における作成、及び作成地区においては その見直しについて 推進していく。 なお、 支え合いマップの作成については、プライバシーに配慮するとともに個人情報の取り扱いについて、社会福祉協議会等を通じて指導していく。	福祉課	津金委員
5	第3部会	411	福祉のまちづくり	その他	会議中の質問	今後の方針に、「プライバシーにも配慮して進めていく」という内容も入れてほしい。	意見として承り、改良を検討		福祉課	多田部会長
6	第3部会	411	福祉のまちづくり	その他	会議中の質問	今後の方針に、「マップの活用の訓練をすべき」と書いていただき、事業としてやっていただきたい。	意見として承り、改良を検討		福祉課	小林委員
7	第3部会	412	高齢者福祉・介護保険	その他	会議中の質問	法律に則ってやることを書いてあるだけだが、「チャレンジ!!」という内容なので、ここはもっと工夫が必要ではないか。	次回部会で報告	・介護保険法の一部改正により、H29年度に向けて、介護予防の事業体系が変更になるため、現在実施している介護予防事業の見直しをする中で、工夫をしていきたいと考えます。 ・「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 介護予防事業は22事業を実施した。そのうち、「75歳お達者訪問指導」は、対象高齢者(介護保険を利用されていない方)876人に訪問を実施し、後期高齢者の介護予防や健康の維持増進について指導及び相談を行った。 一般高齢者向けの参加型事業は、「はつらつ音楽サロン」「転倒骨折予防事業」「はつらつ水中をウォーク」など5事業を、実施し2,453名の参加があった。 また、保健師・栄養士・健康運動指導士が地区に出向き介護予防の講義や実践指導を実施した。 ・「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 保健・医療・福祉・介護の各分野の連携を図り、高齢者を支援していきます。また、高齢者自身が支え手になり、介護予防を実践していける体制を整備・推進していきます。	高齢者福祉課	小林委員

8	第3部会	413	障がい者福祉	その他	会議中の質問	「事業者に働きかけた」や「希望者に配布した」だけでは、イメージが伝わらないので、「何人に配布した」など、できるだけ数値で表していただきたい。	次回部会で報告	・「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 障害者総合支援法に基づく指定特定相談支援事業所・相談支援専門員の拡大について、障害福祉サービス事業所に働きかけた。 平成25年度末現在の相談支援事業所数11、相談支援専門員20名 計画相談対象者数(障がい者)732人(児)150人 計画作成済み(障がい者)357人(児)35人 発達障害及び発達の気になる児童に対し、成長段階ごとに関わる支援関係者が情報を共有し、一貫した支援ができるためのツールとして作成した「サポートブック虹のかけはし」を希望者に配付した。平成25年度末現在の配付数は、500冊中99冊であり、そのうち22名は就学後の児者、他77名は就学前の児童であった。	福祉課	小林委員
9	第3部会	413	障がい者福祉	取り組み状況	質問票による質問	①事業所・専門員の具体的な数を記載すべきではないか。 ②「サポートブック」を配布した年代・人数を記載すべきではないか。 ③「今後の方針」にサービス等利用者計画の記載があるので、「取り組み状況」にその現状値を記載すべきではないか。	次回部会で報告	・「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 障害福祉サービスを利用している全対象者に対して、平成26年度末までにサービス等利用計画を作成していくために、月例事業所連絡会議及び佐久圏域事業所会議等において、相談支援専門員研修の受講と指定相談支援事業所開設について引き続き依頼をしていく。	福祉課	小林委員
10	第3部会	413	障がい者福祉	今後の方針	質問票による質問	①サービス等利用計画を全対象者に作成する方策を具体的に記載すべきではないか。 ②「サポートブック」の周知、見直しの具体的な内容を記載すべきではないか。	次回部会で報告	目標数値：平成28年度相談支援事業所数20、相談支援専門員20名 平成30年度相談支援事業所数23、相談支援専門員35名 「サポートブック」の配付については、ホームページ・広報等の周知に加え、相談場面や出生・就園・就学等ライフステージが変わる際の周知に努めていく。また、これまで配付した利用者からの声を聞き、より有効活用できるように内容の見直しを図っていく。	福祉課	小林委員
11	第3部会	421	健康増進	取り組み状況	質問票による質問	①朝食を食べている割合の現状値を記載すべきではないか。 ②食育だよりの回数、保育所等における活動の回数・人数などを具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告	「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 年12回広報に食育だよりを掲載し、啓発活動を行った。朝食を食べている割合は、平成25年度佐久市食生活実態調査により、	健康づくり推進課	小林委員

12	第3部会	421	健康増進	取り組み状況	質問票による質問	①強化とは具体的にどんなことか。 ②市民全体への啓発とは具体的にどんなことか。	次回部会で報告	①食育ボランティアの食生活改善推進員、さく・さく食育応援隊の育成や、小中学校では栄養教諭、栄養職員と協力したびんびんキラリ食を介した活動を行っています。また、これから子育てを行っていく妊産婦やその家族、乳幼児健診での栄養指導・相談での朝食に関する指導や、喫食状況の確認を強化していきます。 ②広報への食育だよりの掲載(毎月)、食育月間・食育の日に合わせてFMラジオ・CA TVでの啓発、ライフステージに合わせ、乳幼児健診や集団健診後の報告会等で行われる食育活動等が挙げられます。	健康づくり推進課	小林委員
13	第3部会	422	保健活動	取り組み状況	質問票による質問	①自殺者数の現状値を記載すべきではないか。 ②「ホットライン」、「相談」、「ゲートキーパー」、「講座」の実績値などを具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告	「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 (現状)平成25年の自殺者数は19名である。(内閣府) ・毎日の電話相談事業として「こころのほっとライン佐久」を開設した。相談者は483名。 ・毎月1回「こころの相談日」を設け、相談事業を実施した。相談者は12名。 ・「ゲートキーパー養成講座」「心の健康づくり講座」を開催し自殺防止の啓発活動を行った。 *「ゲートキーパー養成講座」の出席者は初級編89名、中級編60名、フォローアップ編72名。「心の健康づくり講座」の出席者は151名である。	健康づくり推進課	小林委員
14	第3部会	422	保健活動	今後の方針	質問票による質問	「連携して啓発活動を」とあるが、具体的にどんなことか記載すべきではないか。	次回部会で報告	庁内での連携や、関係各団体との連携、定住自立圏形成協定での連携を考えているため、原文のままとします。	健康づくり推進課	小林委員

15	第3部会	423	医療	取り組み状況	質問票による質問	<p>①急病センターの現状値を記載すべきではないか。</p> <p>②再構築を支援とあるが、具体的な内容を記載すべきではないか。</p> <p>③市民理解を得る取り組みについて、具体的な内容を記載すべきではないか。</p>	次回部会で報告	<p>「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。</p> <p>平日夜間や休日小児の初期救急医療を確保するため、浅間総合病院内に急病診療センターを開設。平成25年度の利用状況は、平日夜間が、236日の開設に対し4人/日、休日小児については70日の開設に対し、34.7人/日の利用があった。また、初期救急から3次救急までの安定的な医療提供体制を確立するため、佐久総合病院再構築を支援してきており、その中で、医療機関同士の連携強化を図るため「佐久市医療体制等連絡協議会」を主催するとともに、佐久医療センター開院後の医療機関の役割分担について、市民の理解を得るため、市民を対象としたアンケート調査を実施するとともに、その結果も含め、医療機関の</p>	健康づくり推進課	小林委員
16	第3部会	423	医療	今後の方針	質問票による質問	<p>①佐久医療センターは昨年度開院しているので、「開院を向かえ」ではなく「開院し」ではないか。</p> <p>②連携協議のことは取り組み状況の欄にも現状を記載すべきではないか。</p> <p>③病床整備に対する補助のことも記載できるのではないか。</p>	次回部会で報告	<p>「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。</p> <p>今後も急病診療センターを継続して開設する。医療連携協議については、佐久医療センターが平成26年3月1日に開院し、医療機関の役割分担が明確になる中で、医療の安定供給を促すための連携協議を継続するとともに、正しい医療機関のかかり方等について、引き続き市民に対する啓発活動を継続する。</p> <p>また、今後については、「急性期を超過した患者の受け皿確保」及び「高齢化を踏まえ、在宅医療への移行を促進するためのリハビリ体制の整備」などについて、支援策を研究、検討する。</p>	健康づくり推進課	小林委員

17	第3部会	424	医療保険・国民年金	取り組み状況	質問票による質問	①特定健康診査受診率の現状値を記載すべきではないか。 ②受診勧奨の回数、受診券の発送人数・直接申し込みの人数等の現状値を記載すべきではないか。	次回部会で報告	①平成24年度受診率(確定値) 37.1% 平成25年度受診率(見込) 36.8% ②平成25年度 受診券 発送人数 18,809人 直接申し込み 2,722人 勸奨方法等 ・回覧板 6月に広報7月号と同時に回覧 ・はがき 行政区毎6月～9月の間で送付9,996通 ・電話による勸奨件数 集団健診 371件、個別健診 522件 ・広報佐久 5回 掲載 ・特定健診受診促進月間10月 街頭PR ・有線・広報車・FMさくだいによる放送等 ・その他 保健補導員会・医師会での受診率報告活動 ・国保税通知書・保険証一斉更新時にお知らせ文同封 41,879件 ・市内医療機関に特定健診ポスター掲示34件 公共施設ポスター掲示 9件	国保医療課	小林委員
18	第3部会	424	医療保険・国民年金	今後の方針	質問票による質問	付加検査の取扱いの見直しはいかがか。	次回部会で報告	24年度確定数値5.2%増の、900件となる見込みです。	国保医療課	小林委員
19	第3部会	431	母子保健	取り組み状況	質問票による質問	①乳幼児健診受診率の現状値を記載すべきではないか。 ②教室への参加状況、電話連絡・はがき勧奨等による現状値を記載すべきではないか。	次回部会で報告	「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 平成25年度乳幼児健診受診率は4か月児健診99.1%、10か月児健診98.1%、1歳6か月児健診99.5%、3歳児健診98.8%である。受診率向上のために、妊娠中に実施するパパママ教室への参加を母子手帳の交付時に周知して参加を促し、教室では乳幼児健診の必要性等を啓発した。未受診者への受診勧奨を前日、当	健康づくり推進課	小林委員
20	第3部会	431	母子保健	今後の方針	質問票による質問	記載内容が抽象的である。実施を強化することの具体的な内容を記載すべき。	次回部会で報告	「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 母子保健事業は、安心安全に産み育てるための基本事業であるため、今後も社会情勢等の状況を踏まえ、実施を強化していく。 具体的には、電話やはがきによる勸奨で未受診の場合には、地区担当保健師による家庭訪問や子育て支援課等他課との連携により受診勧奨や未受診理由を把握することによりさらなる受診率の向上を目指す。	健康づくり推進課	小林委員
21	第3部会	432	子育て支援・児童福祉	取り組み状況	質問票による質問	①合計特殊出生率の現状値を記載すべきではないか。 ②各種施策の内容を具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員

22	第3部会	432	子育て支援・児童福祉	今後の方針	質問票による質問	記載内容が抽象的である。実施を強化することの具体的な内容を記載すべきではないか。	次回部会で報告		子育て支援課	小林委員
23	第3部会	511	環境保全	取り組み状況	質問票による質問	目標を大幅に超えた理由、説明などを記載すべきではないか。	次回部会で報告	平成24年度からの再生可能エネルギーの「固定価格買取制度」の開始に伴う太陽光パネルの設置増加や、市営メガソーラー発電所の建設、市が行っている太陽光パネル等への補助金交付による成果によるもの。	環境政策課	小林委員
24	第3部会	511	環境保全	今後の方針	質問票による質問	目標を上げたので、そのために必要な対策について具体的に記載すべきではないか。	次回部会で報告	太陽光発電設備に対する助成制度の改正、小水力発電施設の整備、その他の再生可能エネルギーの導入に向けての助成制度の検討。 省エネ型設備等の導入促進など。	環境政策課	小林委員
25	第3部会	512	街並み緑化・公園・景観形成	取り組み状況	質問票による質問	①「27公園43%」と記載すべきではないか。 ②今後の方針欄に団体への援助とあるが、その現状を取り組み状況の欄に記載すべきではないか。	次回部会で報告	「取り組み状況」欄を、次のとおり修正します。 管理委託をしていた行政区等に対するアダプトシステムへの移行の働き掛けや広報佐久、市ホームページで募集を行い、25年度末で27公園(43%)で実施した。	公園緑地課	小林委員
26	第3部会	512	街並み緑化・公園・景観形成	今後の方針	質問票による質問	団体への援助に関する具体的な内容を記載すべきではないか。	次回部会で報告	「今後の方針」欄を、次のとおり修正します。 25年度末で、アダプトシステムの実施率は43%となっているので、引き続き事業が継続されるように、必要となる用具や資材の貸与または支給を行うなど実施団体への援助を行っていく。	公園緑地課	小林委員
27	第3部会	521	環境衛生	取り組み状況	質問票による質問	①全国順位の現状値を記載すべきではないか。今後の方針のところに「目標は高い」とあるが、現状値がわからないと、それも判断できない。 ②取り組みの具体的な内容を記載すべきではないか。	次回部会で報告	①平成24年度1人1日排出量712g/人・日、ごみ排出量少ない都市全国5位(環境省一般廃棄物処理実態調査による) ②生ごみ処理機等購入補助・生ごみ水切運動・マイバック運動・リサイクルと再使用の促進・環境教育の推進・事業系ごみの分別減量化と資源化推進等	環境政策課	小林委員
28	第3部会	521	環境衛生	今後の方針	質問票による質問	具体的な施策を記載すべきではないか。	次回部会で報告	排出抑制リデュース・再利用リユース・再生利用リサイクルの3R運動の推進	環境政策課	小林委員
29	第3部会	522	上水道	取り組み状況	質問票による質問	「環境に配慮した水道」とあるが、定義が計画にも書かれていないが、現状はどうなっているのか記載すべきではないか。	次回部会で報告	電気エネルギーなどの使用を抑制するものとして、自然自然流下を生かした配水方法を継続し、ポンプによる加圧給水は必要最低限で運用する。	環境政策課	小林委員
30	第3部会	522	上水道	今後の方針	質問票による質問	検討するとあるが、具体的な日程や手順等を具体的に記載すべきではないか。平成25年度に組み込みなしているため、今後に向けて現実的な対応が必要となる。	次回部会で報告	チャレンジは、基本計画期間のみならず、各施策を展開する中で、今後の目指す方向として設定したものであるため、そもそも日程・手順等を明記する類のものではないと思われます。	環境政策課	小林委員

記載内容変更

記載内容変更

3 評価の仕組み・資料の作り方に対する指摘事項

整理番号	部会名	指摘箇所		種別	指摘事項	対応	回答	発言者
1	第1部会	チャレンジ	基本的考え方	会議中の質問	「チャレンジ！！」の目標設定が高いのは理解するが、B(実施中)ならば良い、というのではなく、A(達成済)まで持っていきたいという願いがなければ意味がない。あくまでもAまで持っていくために今後何をすべきかを考えるべきである。	部会報告書に付記	—	小平委員
2	第1部会	目標	評価の求め方	会議中の質問	「犯罪発生件数」(614防犯)について、平成24年度に比べると、平成25年度の犯罪発生件数が増えているのに、評価が「順調」になっている。データ上誤りがないとしても、こうしたケースは機械的に評価を算出するのではなく、評価を変更した方が良いのではないか。	次回部会で報告		武重委員
3	第2部会	目標	表の作り方	会議中の質問	事業を進めるためにどれだけの費用を積み増したという部分が見えないと、工事の進捗率の数値だけではよく分からない。	意見として承り、改良を検討		半田委員
13	第3部会	目標	表の作り方	会議中の質問	資料2-2について、H24の実績が一番右側にあるが、H22の計画策定時の値があって次にH24の実績値というように、時系列の順に並んでいた方が見やすい。	次回部会で報告		小林委員
14	第3部会	目標	表の作り方	会議中の質問	資料2-2について、H24の目安値や進行状況も記載し、H24の進行状況も分かるようにした方がよい。	次回部会で報告		小林委員
15	第3部会	目標	表の作り方	会議中の質問	資料2-2について、言葉でただ「順調」と記載するだけではなく、各項目のTの値(進捗率)も記載してあった方が、進捗状況が分かりやすい。	次回部会で報告		小林委員
22	第3部会	目標	目安値の設定	会議中の質問	評価の基準が年度を追うごとに厳しくなっているが、後の年度になればなるほどハードルが高くなるよりは、基準は毎年度同じにした方がよいのでは。(全体会議の中での議論を提案)	意見として承り、改良を検討		小林委員
24	第3部会	目標	目標達成事項の取り扱い	会議中の質問	今年度は達成していても最終年度はどうなるか分からないので、「目標達成」と書くのはどうか。(途中が順調でも最後に大幅に落ち込むこともあり得る。)	意見として承り、改良を検討		多田委員 井出委員
25	第3部会	目標	評価方法	会議中の質問	単年の利用者等の数は、何かあったときにはガクンと落ちてしまうので、そういう場合でも次の年に挽回できるように、累計により評価する方法が取ればよいのではないか。	意見として承り、改良を検討		小柳出委員
26	第3部会	目標	表の作り方	会議中の質問	H24、H25と数字を並べていくように作り変え、目安も年度ごとに設定し、5年間の動きが分かるような評価に改めてほしい。	指摘のとおり対応		小林委員
27	第3部会	目標	その他	会議中の質問	No.26の議論を全体会議で報告してほしい。	指摘のとおり対応 (他の部会に報告)		津金委員
	第3部会	目標	目標設定	会議中の質問	平成23年度に策定されたはずなのに、なぜ計画策定時の数値の時点が平成22年度になっているのか。	次回部会で報告		小林委員
29	第3部会	目標	目標設定	会議中の質問	目標は絶対変えないということではなく、取り扱いは柔軟に変えていってよいと思う。	意見として承り、改良を検討		小林委員

30	第3部会	目標	目標設定	会議中の質問	新たな目標を追加していったらどうか。(後期基本計画P.103「ボランティア登録数」P.105「要介護度別認定者数」などを「目標にじゅんずるもの」として毎年の進行状況を見る)	意見として承り、改良を検討		小林委員
31	第3部会	目標	評価方法	会議中の質問	数値よりも福祉等のサービスを受けられる方の満足度が重要なので、去年使用したアンケートの結果もある程度反映させた評価にした方がよいのではないかと。	意見として承り、改良を検討		多田委員
31	第3部会	目標 チャレンジ	数値設定方法	質問票による質問	①「目標」「チャレンジ」に同じ項目があり、記述の整合が取れていないが(例:水洗化率…目標で90.9%、チャレンジで100%(全戸)と記載)、そこはどのような説明になるのか。 ②「目標」における記載と「チャレンジ」における記載と同じにすべき。その際、できるだけ数値や取り組みはできるだけ具体的に記載することが必要。	次回部会で報告		小林委員

第一次佐久市総合計画後期基本計画「目標」の進行状況(まとめ)

資料 2-2

<色別表示の見方>

■:目標の推移が「順調」

■:目標の推移が「概ね順調」

■:目標への進行状況が「やや遅れている」

■:目標への進行状況が「遅れている」

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移					結果の分析	今後の方針	備考	(参考)
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成25年度		評価				平成24年度実績値
							目安値	実績値					
1	111	文化・芸術	貸し館系施設の利用件数	件/年	8,705 [H22]	9,500	9,023	10,916	順調	芸術文化への関心の高まりや高齢者等の余暇利用から、貸館の利用件数が増えていると考えられる。	利用者の利便性を考え、利用しやすい親しまれる施設運営をしていくとともに、利用する人を支援する施策を検討していく。	目標達成	9,889
2			観覧系施設の延べ入館者数	人/年	38,844 [H22]	40,000	39,306	35,802	遅れている	各施設とも、企画を考えて実施し入館者増を図っているが、入館者数は変化していないことから、減少傾向は継続していると考えられる。	展示・展覧会の企画に力を入れていくとともに、講演会やワークショップなどの講座を引き続き開催し、入場者の増加に取組む。		35,802
3			少年考古学教室参加者数	人/年	67 [H22]	80	72	87	順調	教室の内容を発掘調査体験から作業体験に変更し、参加者が増加した。	少年考古学教室を継続するとともに、児童生徒が参加しやすい時期に開催することや、文化財への関心を高めるための内容などを検討し、「順調」の評価を維持することを目指す。	目標達成	78
4	112	地域間交流・国際交流	国際交流フェスティバル延べ参加者数	人/年	2,800 [H22]	3,500	3,080	2,500	遅れている	ポスター、チラシにより広報に努めたが、参加者は目標値を下回った。	民間団体が主体となって開催できるイベントについては、民間団体への移行を図る。		2,750
5			国際交流サロン延べ参加者数	人/年	319 [H22]	400	351	328	やや遅れている	事業を企画するボランティア団体からのサロン開催希望が減ったことにより、開催回数が減少し、参加者数は目標値を下回った。	国際交流サロンは、外国籍市民と日本国籍市民の交流の場として事業を継続するが、事業の企画、運営をはじめ事務局についても民間団体への移行を検討していく。		309
6			空き家バンク掲載物件の契約成立件数	件/年	39 [H22]	50	43	59	順調	佐久市空き家バンクの周知が図られていることが契約実績に結び付いている。	利活用可能な空き家の掘り起こしにより、引き続き空き家バンクの充実を図る。	目標達成	47

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成25年度		結果の分析	今後の方針		備考	
							目安値	実績値					評価
7	113	人権尊重社会	人権教育・啓発事業などの延べ参加者数	人/年	8,105 [H22]	8,500	8,263	10,135	順調	新たに福祉施設や新任・転入教職員への研修会、また、区に対して学習会について積極的な呼びかけを行ったことで、目標の成果が得られた。	人権同和教育講座や各区への学習会、また、学校・企業での研修会を開催し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図っていく。	目標達成	11,033
8			隣保館活動などの延べ参加者数	人/年	5,227 [H22]	5,300	5,256	6,073	順調	身近な内容の事業であったことと、広く市民に情報提供をしたため、目標の成果が得られた。	地域の実態やニーズに合わせた身近な内容等を取り入れた事業を引き続き実施し、地域住民との交流を促進していく。	目標達成	6,025
9	114	男女共同参画社会	審議会などにおける女性委員の登用率	%	18.1 [H22]	25.0	21	20.5	概ね順調	各課へ呼び掛けてきたことにより、女性委員の登用が微増ではあるが上がってきている。	機会あるごとに各課への呼びかけ協力を仰ぐとともに、一般公募の中に率先して手を挙げていけるような、女性の人材育成を図っていく。		19.7
10	122	学校教育	小学校不登校児童の割合	%	0.36 [H22]	0.32	0.34	0.60	遅れている	家庭環境がより複雑になり、昼夜逆転等で生活リズムが乱れている児童が増加してきているため。	児童相談所や子育て支援課等、関係機関との連携を密にし、児童の家庭環境の大きな変化をいち早くつかみ、適切な対応をしていく。		0.51
11			中学校不登校生徒の割合	%	3.24 [H22]	2.74	3.04	3.46	遅れている	関係機関との連携をより深める努力をしたところ、不登校生徒の数は減少したが、目標値には及ばなかった。	日々の欠席状況の把握や生徒との教育相談の機会を定期的に設けることなどに重点を置き、不登校状況を未然に防ぐための努力をしていく。		3.35
12	123	高校教育・高等教育	奨学金制度利用者数	人/年	32 [H22]	40	35	49	順調	制度の周知が進み利用者は順調に推移している。	制度のPRとあわせ、他の制度や、他の自治体の制度と比較検討し、本制度が、さらに活用されるよう、改善していく。	目標達成	21
13	124	青少年の健全育成	各地区の育成活動への延べ参加者数	人/年	183,139 [H22]	184,000	183,483	146,429	遅れている	年々児童数の減少が大きくH22年度とH25年度を比較すると、児童数は365人減少し、育成会活動への参加延べ人数は36,710人減少となっている。今後も児童数の減少は続くと考えられるので、目標値への達成は難しいと思われる。このような中で、育成会活動や地域体験活動を更に推進するためには、育成会活動の取組に対するアドバイスや他地区との合同開催の提案等による支援が必要である。	各地区の育成会活動への支援として、個々の取組内容に対するアドバイスや他地区との合同開催の提案等を推進する。		167,007

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						備考	(参考) 平成24年度 実績値	
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成25年度		結果の分析	今後の方針			
							目安値	実績値					評価
14	131	生涯学習	生涯学習市民のつどいなどのイベント延べ参加者数	人/年	31,394 [H22]	32,000	31,636	37,380	順調	参加者数については、イベント数の増減および天候により変動するが、25年度は目標値を超えることができた。	生涯学習の機会に関わる情報の提供は、手法、場所等について工夫を重ねて行く。	目標達成	29,371
15			公民館事業別延べ参加者数	人/年	37,106 [H22]	38,000	37,464	25,733	遅れている	台風接近による「コーラスまつり」の中止や、2月の大雪により「公民館のつどい」が中止になったことから大幅な減となった。	引き続き、公民館事業参加者の獲得に向け、事業内容の見直しや、事前のPRを実施していく。		33,978
16			図書などの貸出し冊数	冊/年	531,901 [H22]	600,000	559,141	534,284	遅れている	前年度に比べ開館日数が5日少なかったこと(2月の大雪による臨時休館2日含む)や、大雪により、開館中でも来館者が激減した日が2週間ほど続いたこと。またシステム更新作業のため、貸出しを行えない期間が10日間あったことなどにより、貸出し冊数が伸びなかった。	平成26年度から始まる読書通帳事業や、望月の読書に心地よい椅子コンテスト等により利用者拡大のための工夫を図る。		567,453
17	132	スポーツ	スポーツ教室延べ参加者数	人/年	4,225 [H22]	5,000	4,535	3,046	遅れている	参加者不足により中止となった教室が5教室あったため、昨年より少ない結果となった。	市民ニーズを把握し、教室の内容を検討するとともに、指導者の発掘・育成をしていく。		4,328
18			スポーツ大会延べ参加者数	人/年	15,912 [H22]	17,500	16,547	13,644	遅れている	悪天候により、1大会が中止となったが、1大会が新たに加わった事により昨年とほぼ同じ結果となった。	参加チームや参加者の減少している大会は、競技団体と今後のあり方を検討する。		13,453
19			体育施設延べ利用者数	人/年	631,300 [H22]	700,000	658,780	686,948	順調	平成25年4月に佐久総合運動公園陸上競技場がオープンしたことや、平成23年度に改修を行った臼田テニスコートの利用者が年々増加していることによる。	体育施設の効率的・効果的な管理運営について指定管理者制度の導入を検討する。		635,910

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定 時の値	平成28年度 末の目標値	平成25年度		結果の分析	今後の方針		備考	
							目安値	実績値					評価
20	211	高速交通ネットワーク	長野新幹線の延伸 (長野ー金沢間の開業)		未開業 [H22]	開業		26年度開業予定	実績値なし	金沢までの延伸開業が平成27年3月と決定した。列車名についても「あさま」の名前が残った。	北陸新幹線の佐久平駅停車本数確保に向けて関係機関へ働きかけて行くとともに、敦賀までの速やかな着工と金沢ー大阪間の早期全線開通を目指し関係団体と協力していく。		26年度開業予定
21			中部横断自動車道佐久南インターチェンジー八千穂インターチェンジ(仮称)間の開通		未開通 [H22]	開通		28年度以降の開通	実績値なし	本区間について、平成26年4月に国土交通省より平成29年度に開通と公表された。	29年度開通に向けて、道水路整備事業、中部横断自動車道調整事業を進捗させる。併せて、県施行の県道上小田切臼田停車場線アクセス道の整備促進していく。		28年度以降の開通
22			中部横断自動車道八千穂インターチェンジ(仮称)から長坂ジャンクション(仮称)間の整備計画格上げ		基本計画 区間 [H22]	整備計画 区間		未定	実績値なし	計画段階評価が行われルート帯案が決定。今後の対応方針案がまとまり、次に整備区間への格上げの段階。	今後は、環境アセスの実施、整備区間格上げに向けて要望活動を行っていく。		未定
23	212	地域交通ネットワーク	幹線道路整備延長	m	4,731 [H22]	8,231	6,131	7,440	順調	事業用地取得などが順調であったため、目安値以上の進捗となった。	財源確保、コスト縮減に努め整備延長を確保する。		6,127
24			都市計画道路整備延長	m	59,527 [H22]	63,377	61,067	66,400	順調	中部横断自動車道の整備が進んだことにより、目標値を大幅に上回った。	すでに目標値を達成したが、引き続き、今後も整備に努める。	目標達成	64,845
25			アダプトシステム管理箇所数	箇所	3 [H22]	19	9	17	順調	新規供用路線を中心に、積極的に事業への参加を提案しており、実績に結びついている。	アダプトシステム事業を周知し、大勢の市民の方々に参加していただくように普及を推進していく。		16
26			公共交通延べ利用者数	人/年	113,538 [H22]	125,000	118,123	103,595	遅れている	商業施設への停留所の新設、バリアフリーバスを導入して間がないため、その効果は未だ顕著でないと認められる。	公共交通乗車体験イベントの開催、利用者のニーズを反映した路線変更等により、利用者の確保に努める。		108,768
27	221	土地利用	宅地面積	ha	2,337 [H21]	2,492	2,399	2,386	概ね順調	幹線道路及び都市計画道路の整備の進捗に伴い、沿線農地の転用等により、宅地面積が増加した。	雇用増加や定住者増加を目指し、適地において工業用地、商業用地などの宅地化の推進を図る。		2,378

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定 時の値	平成28年度 末の目標値	平成25年度			結果の分析		今後の方針	備考
							目安値	実績値	評価				
28	222	市街地	跡部臼田線・龍岡城 駅線の整備率	%	0.4 [H22]	100	40	46.18	順調	事業費全体に占める用地補償費 の事業割合が高く、地権者との 契約率が高かったため目安値以 上の結果となった。	事業完了にむけて、今後も事業 を進めていく。		32.46
29	223	住宅・宅 地	住宅マスタープラン の策定		未策定 [H22]	策定	部分的策 定	部分的策 定	やや遅れ ている	平成26年3月に公営住宅整備計 画と位置付ける中で、佐久市公 営住宅長寿命化計画を策定し た。	今年度予定されている公共施設 マネジメント基本方針における 公共施設再配置計画(仮称)、 平成29年度に策定される第2 次総合計画、また、今年度から 始まった県の長寿命化計画の見 直し状況等を勘案しながら、平 成32年度以降の長寿命化計画 の見直しを踏まえ、策定期期、 内容についてについて考える。		未策定
30	231	高度情報 通信ネッ トワーク	電子申請の件数	件/年	289 [H22]	500	373	1,658	順調	利用項目が増加したことによ り、利用機会も増加したため、 数値が緩やかに伸びた。	目標値を超える結果の維持に努 める。	目標 達成	909

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定 時の値	平成28年度 末の目標値	平成25年度		結果の分析	今後の方針		備考	
							目安値	実績値					評価
31	311	農業	認定農業者数	経営体	268 [H22]	310	285	269	遅れている	農業者の高齢化により、認定農業者を更新しない方がいるため、減少傾向である。	農業後継者等若い農業者へ認定農業者制度を理解してもらい、育成することで目標の達成を目指す。		270
32			農業アシスタント数	人	20 [H22]	70	40	41	順調	平成25年より、野菜の講習会を新品目圃場で開催し、受講者数の増加につながっている。	様々な品目の講習会を開催し、受講者を増やす。		18
33			農業法人数	法人	16 [H22]	20	18	22	順調	経営の安定化を図るため、法人化する農業者が増加している。	国の事業等を利用しながら、法人化を目指す農業者を支援する。	目標達成	21
34			農畜産物産出額	億円/年	108 [H18]	110			データ入手不可能	(本項目は、国が市町村別の統計調査を行っていたが、平成18年度調査を最後に調査が行われなくなった。現在、全国市長会を通じて、国に対し、調査の復活の要望を行っている。)			データ入手不可能
35	312	水産業	佐久鯉出荷	t/年	110 [H22]	115	112	99	遅れている	以前に比べて需要が減少している。	料理教室などを開催し、佐久鯉の様々な調理をPRする中で、需要の拡大を図る。		99
36	313	林業	森林整備面積	ha/年	610 [H22]	780	678	520	遅れている	平成24年度より森林整備に対する補助要件が厳しくなったため、目標とした面積に至らなかった。	市有林の整備を推進し、目標とする森林整備面積を達成させる。		430
37	321	商業・サービス業	商品販売額	億円/年	1,994 [H19]	2,100	2,036	未公表	実績値なし	経済状況がデフレ傾向にあり平成19年から平成24年は販売額が17.0ポイント減となっている。平成26年には経済センサスが実施されることから調査結果を注視していきたい。	商品販売額は、平成9年から下落しており、目標値の達成は厳しい状況にあると思えるが、空き店舗対策に伴う補助金を平成26年度に創設し、空き店舗の解消に努め商店街の環境整備を図り商品販売額の増加を目指す。		1,656
38	331	観光	市内への延べ入込客数	万人/年	162 [H22]	190	173	148	遅れている	2月の豪雪により、新幹線等の交通網がマヒしたため観光客が大幅に減少した。	自然災害はやむを得ないことから、今後も誘客宣伝活動を積極的にを行い効果的なPR活動を展開する。		152

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成25年度		結果の分析	今後の方針		備考	
							目安値	実績値					評価
39	341	工業	製造品出荷額	億円/年	2,061 [H22]	2,500	2,237	集計中	実績値なし	製造品出荷額は現在集計中であるが、目標は達成していないと思われる。	さらに、企業立地の推進と、市内工業の活性化のため、各種事業を実施していく。		1,703
40	351	就労・雇用	就職相談会参加者数	人/年	113 [H22]	130	120	110	遅れている	開催日の調整により、平成24年度に比べ、大幅に参加者が増加したが、目標は達成できなかった。	就職活動時期の変更などがあることから、実施時期の変更等の対応が必要		73
41			インターンシップ実施学生数	人/年	7 [H22]	15	10	8	やや遅れている	始まったばかりの事業のため、PRの効果などで、参加人数も増えてきたが、目標には達しなかった。今後についても、受入事業所及び参加学生へのPRが重要である。	受入事業所の登録数を増やし、参加する学生の選択の幅を広げていきたい。		6

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定 時の値	平成28年度 末の目標値	平成25年度			結果の分析		今後の方針	備考
							目安値	実績値	評価				
42	411	福祉のまちづくり	福祉体験教室開催回数	回/年	14 [H22]	16	15	16	順調	多くの学校等に事業の目的を説明し、協力を得て体験教室を開催できた。	今後も多くの学校に事業の目的を説明し、体験教室を開催することによりボランティア意識の向上を図る。	目標達成	10
43	412	高齢者福祉・介護保険	介護予防事業の延べ参加者数	人/年	19,095 [H22]	23,500	20,857	23,781	順調	二次予防高齢者施策の介護予防ふれあいサロン事業の参加者が増加、一般高齢者施策では、各事業において参加者が増加した。高齢者人口の増加とともに、高齢者の介護予防へのニーズが高まっていると考えられる。	今後もこの水準を維持していきたい。	目標達成	20,000
44	413	障がい者福祉	相談支援事業実施事業所数	事業所	5 [H22]	20	11	12	順調	障がい者の福祉に関する様々な問題について相談に応じ、福祉サービス利用のための情報提供等を行う関係機関と支援会議を行うなかで、相談支援の充実が図られてきている。	相談支援事業所及び相談支援専門員等との連携協力するなかで、障がい児(者)のニーズを的確に把握し、満足度を高められるよう事業を実施していく。		11
45	414	母子父子福祉・低所得者福祉	高等技能訓練促進費・自立支援教育訓練給付金受給者数	人/年	4 [H22]	6	5	5	順調	広報への掲載回数を年1回から2回に増やし、制度の周知に努めたことにより、受給者数が順調に推移している。	母子家庭等の経済的な自立を支援するため、広報への掲載を適宜増やし、諸制度の周知と利用拡大を図る。		5
46	421	健康増進	ぴんころステーション延べ参加者数	人/年	1,715 [H22]	2,000	1,829	1,286	遅れている	野沢山門市は、観光客の方が多く市民が少ないため開催回数を減らした。また、冬季は戸外での開催のため、健康相談にふさわしくない環境であることから冬季の開催を減らした。	ぴんころステーション実施箇所の拡大を図る。		1,080
47			3歳児のむし歯保有率	%	26.71 [H22]	20.00	24	25.12	やや遅れている	健診判定基準が見直され、サホライド塗布歯の分類変更が行われたことが一因とも考えられる。	子どもの歯の教室等、様々な機会を有効に活用し、むし歯保有率の減少を図る。		20.89
48	422	保健活動	メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合	%	25.2 [H22]	15.2	21	集計中	実績値なし	現在集計中だが、割合は大きく変化していないものと思われる。	医療機関との連携を図るなどし、特定保健指導や結果報告会での指導を充実させる。		26.6

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定 時の値	平成28年度 末の目標値	平成25年度		結果の分析	今後の方針		備考	
							目安値	実績値					評価
49	423	医療	浅間総合病院第二次整備事業進捗率	%	0 [H22]	100	40	7.00	遅れている	国の交付金事業である地方都市リノベーション事業採択のため、事業スケジュールを変更したことにより当初計画と比べ事業進捗が遅れている。	新たな事業スケジュールにより、事業進捗を図る。		4.55
50	424	医療保険・国民年金	国民健康保険税収納率(現年課税分)	%	90.26 [H22]	100	94	93.48	概ね順調	督促・催告状の発送・臨戸訪問・全職員での滞納整理による税収の増、未申告者への申告勧奨での適正賦課	督促・催告書の送付及び臨戸訪問、全職員での滞納整理、未申告者への申告勧奨を行う。国保税を中心とする専任徴収員の配置を検討する。		91.78
51	431	母子保健	こんにちは赤ちゃん事業における新生児訪問率	%	96 [H22]	100	98	98.00	順調	こんにちは赤ちゃん事業が地域に浸透している。	生後4か月以内に訪問できるよう、実施をさらに強化していく。		97.80
52	432	子育て支援・児童福祉	子育てサロンの延べ利用者数	人/年	7,908 [H22]	8,300	8,065	8,857	順調	育児講座や親子遊びの充実により利用者数が増加した。	育児不安の軽減を図るため、利用者アンケート結果や要望等についてスタッフ会議で検討し、事業に反映する。	目標達成	8,753
53			つどいの広場の延べ利用者数	人/年	15,099 [H22]	15,800	15,379	14,206	遅れている	大雪の影響により開催日数が減少したことで昨年度より参加者数が若干減少しているが、気軽に集い、交流できる場として提供でき、また子育て相談の場として、育児不安の軽減を図ることができた。	講習内容について、参加者の要望をスタッフ会議で検討し、事業の改善を図る。子育てサークル等の活動実態を把握し、場所の提供などの支援を行う。県と連携し、仕事に対する不安や悩みを抱えた子育て世帯の女性に対して相談支援を行う。		14,370
54			児童館の延べ利用者数	人/年	303,975 [H22]	319,000	309,985	273,510	遅れている	目標は達成していないが、H25年度実施したニーズ調査の結果から、児童に健全な遊びを与え、働きながら子育てをしている家庭の生活支援施設としての市民満足度は高い。	平成25年度の養護学校児童生徒の受入実績がないことから、受入先の児童館やその体制等について検討を進める。		280,265

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移					結果の分析	今後の方針	備考	(参考)
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成25年度		評価				平成24年度実績値
							目安値	実績値					
55	511	環境保全	市内家庭の総消費電力	Mkw/年	239,143 [H22]	191,315	215,230	232,069	やや遅れている	ライフスタイルなどによるエネルギー需要の固定化。	近年の異常な暑さや、積雪量の増加なども勘案しつつ、目標達成のために広報を充実させる。		234,346
56	512	街並み緑化・公園・景観形成	平尾山公園の入場者数	人/年	411,947 [H22]	420,000	415,168	348,927	遅れている	景気などの社会情勢や天候等の影響により入場者の減少がみられる。	公園全体の利用者数が減少する中、昆虫体験学習館の入場者は増加したことから、企画等を充実することで利用者数の増加を図る。		386,238
57			都市公園の整備面積	m ² /人	7.94 [H22]	9.82	9	8.49	概ね順調	市民交流ひろばの開園、佐久総合運動公園補助競技場等の整備により公園面積は増加している。	佐久総合運動公園の整備を計画しており進めていく。		8.11
58	521	環境衛生	家庭系ごみの排出量	t/年	21,384 [H21]	19,591	20,667	19,621	順調	資源物が減量している一方、分別不足により可燃・埋立ごみは増加している。	市民に対し可燃・埋立ごみの分別徹底を啓発強化し呼びかける。	目標達成	20,297
59			事業系ごみの排出量	t/年	5,296 [H21]	4,670	5,046	5,705	遅れている	資源物・可燃ごみ共に分別不足により増加している。	大量排出事業者に対し、直接ごみの減量・分別徹底を指導するなど、啓発を強化する。		5,754
60	522	上水道	上水道有収率	%	84.0 [H22]	90.0	86	83.7	遅れている	平成25年度は83.7%となり、前年度と比較して0.5ポイント下回り、施設の老朽化等による漏水量の増加が考えられる。	水資源を有効に活用するため、有収率向上の施策を積極的に検討する。		84.2
61			水源余裕率	%	16.2 [H22]	22.0	19	16.4	遅れている	水源水量、一日最大配水量ともに大きな変化がないことから、指標値はほぼ横ばいに推移している。	将来に向け安定した水の供給を維持していくため、適正な水源水量の確保に努める。		16.9
62	523	下水道	下水道整備面積	ha	2,931 [H22]	3,032	2,971	2,952.8	やや遅れている	平成25年度は西屋敷地区、荒宿地区など6.52haの整備を計画的に行い、整備面積は着実に増加している。	未整備地区の優先順位を考慮し、下水道の整備促進を図る。		2,946.3
63			水洗化率	%	86.9 [H22]	90.9	89	90.6	順調	消費税増税の要因によって新規下水道接続件数が増加したと考えられる。	公共下水道区域の未接続世帯を対象に個別訪問を実施し、水洗化の促進を図る。		89.5
64			下水道使用料収納率(現年分)	%	96.8 [H22]	100	98	97.0	やや遅れている	25年度は年度末(2月)の大雪が影響し、交通に支障が生じたため、この時期の収納率が低下し、翌年度収入にずれ込んでしまったことにより、下水道使用料収納率が目標値に若干達しなかった。	口座振替を推進するため、現金納付者の納入通知書すべてに推進チラシ及び口座振替依頼書を同封。また、滞納処分を視野にいたった滞納整理強化を検討する。		97.1

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定 時の値	平成28年度 末の目標値	平成25年度			結果の分析		今後の方針	備考
							目安値	実績値	評価				
65	611	防災	自主防災組織設置区数	区	230 [H22]	239	234	233	概ね順調	地域での会合に出向き、地域防災力を訴えた結果が表れたと感じている。	自主防災組織を現実的に設置できない地域への対応策を区長と相談し、安全・安心へ繋げる取り組みを図る。		232
66			地域自主防災訓練実施区数	区	143 [H22]	239	181	122	遅れている	平成25年度は、中込地区が佐久市総合防災訓練の参加に代えたこともあり下降したが、全体で見ると上がってきている。	これまでは、組織編成だけに留まっていたが、新規に訓練に取り組みを始めた地域も微増している。いつくるかわからない備えではなく、いつか必ず来る備えに地域防災への高揚を図る。		134
67	612	消防・救急	消防団協力事業所数	事業所	57 [H22]	100	74	96	順調	協力事業所に対する県税の優遇制度・佐久市の入札優遇制度の効果や、災害時における消防団の重要性が広く理解されてきていることが順調な推移につながったと考えられる。	今後も引き続き消防団協力事業所の募集を呼び掛けていく。		93
68			火災発生件数	件/年	61 [H22]	25	47	43	順調	火災予防のビラ配布、独居老人への火災予防訪問、気象乾燥時の野焼注意の広報等の予防消防活動により、住民の火災に対する注意が高まったことが発生件数の減少につながったと考えられる。	火災発生件数は年度により一律な減少とはいかないが、目標値に向けて予防消防活動を行っていく。		64
69	613	交通安全	交通安全大会、各種講習会などの延べ参加者数	人/年	10,442 [H22]	16,000	12,665	11,068	やや遅れている	実施回数は前年比増加しているものの、参加者数に減少が見られた。	交通安全市民大会、各種講習会等の開催要請を、関係機関団体に行い、教育啓発活動を推進する。		15,563
70	614	防犯	犯罪発生件数	件/年	1,079 [H22]	835	981	933	順調	昨年より件数は増えているが、全体的に減少傾向である。しかし、年々巧妙化する、振り込め詐欺を代表とする特殊詐欺事件が増加している。	夜間の犯罪防止のための防犯灯設置をはじめ、地域が一体となった防犯体制及び活動の更なる充実を図る。		872
71	615	消費生活	消費生活展、街頭啓発、講習会などの実施回数	回/年	35 [H22]	60	45	31	遅れている	老人クラブ対象の講習会が、全クラブ中、半数に留まっていることから、達成できなかった。	市内全老人クラブによる講習会の開催協力を要請する。		26

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						(参考) 平成24年度 実績値		
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成25年度		結果の分析	今後の方針		備考	
							目安値	実績値					評価
72	621	協働のまちづくり	佐久市市民活動サポートセンター登録団体数	団体	- [H22]	300	120	120	順調	登録団体増加のための広報活動を行ったため、登録団体数が増加した。	登録団体を増やすため、ホームページ、機関紙などを活用し、広く告知する。	97	
73			佐久市まちづくり活動支援事業を活用する団体数	団体/年	- [H22]	10	4	1	やや遅れている	佐久市まちづくり活動支援金が利用されにくい制度であったため、登録団体数が減少した。	平成25年度に利用しやすくなるよう、制度の見直しを行った。今後は、まちづくり支援金の認知度を高めるため、積極的なPRを行う。	6	
74	621	協働のまちづくり	各審議会など全体公募委員割合	%	3.2 [H22]	10.0	6	5.4	概ね順調	市民参加型市政の推進により、市民の関心が高まっているが、認知度が低いため、応募は平成24年度と同じ数となった。	審議会等委員の公募PR等を行い、各審議会などへの市民公募委員割合の拡大に努める。	5.4	
75	622	コミュニティの育成	区への加入率	%	87.57 [H22]	90.00	89	86.30	遅れている	都市化の進展と共に、区への加入率も低下しており、共助の精神は希薄化する傾向にある。	魅力あるコミュニティ活動を支援するため、区の活動費等に対して交付金を交付する。また、新たな連携の方法についても模索していく。	86.77	
76	623	公共施設	新規指定管理者制度導入施設数	施設/年	1 [H22]	1	1	1	順調	市民交流ひろば(公園緑地課所管)の開園に伴い、新規で1件導入した。他の施設については、平成25年度において導入する施設はなかった。	指定管理者制度を導入することが効果的であると判断される施設については、各課と調整し、導入に向けた調整を行っていく。	目標達成	3
77	624	行財政	市税収納率(現年課税分)	%	97.25 [H22]	100	98.30	98.26	概ね順調	差押処分の強化により、概ね順調な結果となった。	引き続き差押などの滞納処分を強化していく。	97.86	
78	625	広域連携	定住自立圏による事業実施数	事業	- [H22]	25	10	32	順調	具体的な取り組みの開始から2年目を迎え、制度がより浸透したことにより、事業実施数が増えたものと考えられる。	引き続き関係市町村との連携・協力を図り、定住自立圏による事業を推進していく。	目標達成	31

章別まとめ	順調	概ね順調	やや遅れている	遅れている	その他 (集計中など)
1 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥	8	1	1	9	0
2 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり	5	1	1	1	3
3 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出	2	0	1	5	3
4 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成	6	1	1	4	1
5 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出	2	1	3	4	0
6 市民生活の安全確保と市民満足度の向上	6	3	2	3	0
総合	29 項目	7 項目	9 項目	26 項目	7 項目